

地域における野生鳥獣被害対策の成果と今後の取組について

対策チーム名：松本野生鳥獣被害対策チーム

■タイトル 野生鳥獣被害先端地域サポート隊によるニホンジカ行動マップの作成

■地域名 東筑摩郡 生坂村・麻績村・筑北村 地区

■内容概要

1 地域の概要

集落戸数		加害鳥獣	被害農作物等	備考
	うち農家			
3582	1835	ニホンジカほか	稲、野菜、豆、イモ	

2 取組の概要

区分	内容
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・松本管内の北部に位置する生坂・麻績・筑北の3村は、高密度にシカが生息するエリアで、長野・北安曇方面へシカを拡散させている最前線だと考えられる。 ⇒ 筑北村におけるH25年度捕獲数 1km²当り4.3頭（管内平均1.9頭） ・3村では10年間（H15～25）でイノシシによる農業被害は2.5倍、シカのそれは4倍に増加し、シカの生息域が北上している影響が表れている。 → シカによる農業被害は、3村で松本管内全体の63%を占める（特に水稻の被害多） ・マクロ視点で被害対応策を検討するため「野生鳥獣被害先端地域サポート隊」を立ち上げ、この3村での生息状況や行動をまとめて“見える化”する。
取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 各村の鳥獣担当者，農政担当者，鳥獣保護管理指導員，猟友会支部長，森林組合担当職員，各交通関係機関などに対してヒアリングを実施 2 防除実施予定エリアで農業者へのヒアリング（筑北村坂井地域） 3 ヒアリングの結果から把握したニホンジカの繁殖地や移動ルート、土舐め場などを実際に現地踏査 4 考察を加えながら「ニホンジカ行動マップ」を作成 5 マップを活用しながら効率的捕獲方法実証事業（誘引狙撃）を立案
成果	<p>行動マップ：次頁のとおり</p> <p>効率的捕獲方法実証事業（誘引狙撃）によって、平成28年2月16日～3月25日までの約40日間（捕獲実施日数：26日間）で11頭のニホンジカを捕獲した。</p>
農家等の方からのコメント	夜に畑に出てくるシカが、案外と近くの山から通っていると分かったなど

3 課題と今後の取組

- ・シカの行動が見えてきたため、これを基により効率的な捕獲に結び付けていく必要がある。
- ・地域ごとに行動特性が違う可能性があるため、継続的な追跡調査が必要である。

4 活動状況

【サポート隊の概要】

《名称》

「野生鳥獣被害対策先端地域サポート隊」
(松本鳥獣対策チームの別動隊としての位置づけ)

《構成員》

- ◎隊長： 林務課林務係長
- 隊員： 林務課、農政課、地域政策課、農改センター職員
- ☆アドバイザー： 信州大学山岳科学総合研究所 教授 泉山茂之

【活動内容】

《社会的条件調査》(職員による聞き取り調査)

- ・基礎データ
(農林業被害、広域防護柵、捕獲実績、農作物別土地利用)
- ・シカの行動
(目撃箇所、交通事故、ねぐら、餌場、土舐め場、移動ルート)

《現地調査》

- ・職員による現地確認
(生息場所、移動ルート、土舐め場)



サポート隊の会議



現地でのヒアリング

